

平成 27 年度

尾瀬山の鼻・尾瀬沼ビジターセンター 運営記録

施設位置図

尾瀬山の鼻ビジターセンター運営記録	… 1
コラム「尾瀬ボランティア」	…10
尾瀬沼ビジターセンター運営記録	…11
コラム「尾瀬自然解説ガイド」	…18
コラム「一般の方から寄せられた声」	…19

巻末資料

ビジターセンター傷病者対応事例	…20
尾瀬のできごとをふりかえる	…22
平成 27 年シーズンの尾瀬トピックス	…24
尾瀬トピックス 20 年史	…25
尾瀬保護財団の沿革と概要	…27
ビジターセンターの自然体験プログラム	

公益財団法人 尾瀬保護財団

ビジャーセンター位置図



尾瀬山の鼻ビジターセンター

〒378-0411 群馬県利根郡片品村大字戸倉字中原山898-9



尾瀬沼ビジターセンター

〒967-0532 福島県南会津郡檜枝岐村字燧ヶ岳1番地



ビジャーセンターまでの交通案内

尾瀬山の鼻ビジャーセンターまでは・・・

- ・群馬県片品村の鳩待峠から徒歩で約 60 分。
 - ・鳩待峠まではふもとの戸倉から乗合バス・タクシーで約 25 分

尾瀬沼ビジターセンターまでは・・・

- ・福島県檜枝岐村の沼山峠休憩所から徒歩で約 60 分
 - ・沼山峠まではふもとの御池から乗合バスで約 20 分

平成27年度 尾瀬山の鼻ビジターセンター運営記録

I. ビジターセンター管理運営

群馬県が設置した尾瀬山の鼻ビジターセンター（以下、山の鼻ビジターセンター）の管理運営を平成8年度から受託しています。

1. 運営期間

- (1) 職員駐在：平成27年4月25日(土)～平成27年11月8日(日) (198日間)
- (2) 開所期間：平成27年5月15日(金)～平成27年10月25日(日) (164日間)
- (3) 休館日：なし

※4月25日～5月14日は仮オープン（除雪・開設準備等）です。

2. 取扱時間

(1) 施設開館 7:00～18:00

(2) 窓口案内 7:30～16:00

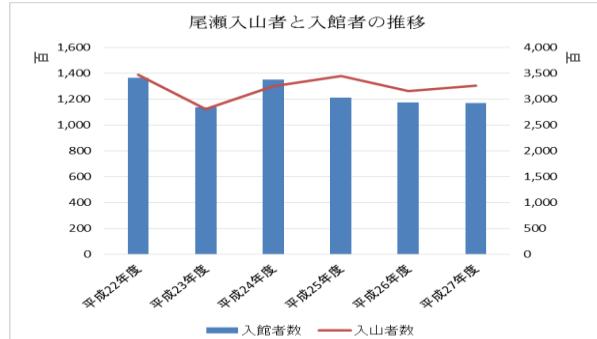
※開館・窓口案内の時間は、入山者の状況に応じて柔軟に対応しています。

3. 入館者数

117,142人 参考(入山者 326,100)

平成26年度	117,411 (315,400)
平成25年度	121,245 (344,200)
平成24年度	135,135 (324,900)
平成23年度	113,572 (281,300)
平成22年度	136,560 (347,000)

(単位:人)



4. 職員構成

(1) 人数 9人 ※うち2人(*)は群馬県職員

(2) 構成

職	氏名	主な分掌業務
所長	西澤政春	全体統括
*主幹	宝珠山恭子	管理運営、自然解説（駐在期間5月から6月）
*副主幹	力山亜紀子	管理運営、自然解説（駐在期間9月から10月）
嘱託	森山暢希	統括補助、環境学習指導、自然解説、施設管理
管理員	高堀かな	情報収集、館内展示管理、自然解説、窓口対応
管理員	菅原與晴	登山道整備、情報収集、クマ対策、窓口対応、自然解説
管理員	中村俊一	登山道整備、情報収集、館内展示管理、自然解説、窓口対応
管理員	森田真木	情報収集、館内展示管理、自然解説、窓口対応
管理員	渡辺早紀	情報収集、館内展示管理、自然解説、窓口対応

II 自然解説事業

尾瀬を訪れる利用者に、自然とのふれあいを通じて尾瀬にふさわしい利用方法を啓発するとともに、豊かな自然の大切さを意識してもらうことを目的としています。

そのため、山の鼻ビジターセンター内の展示室及びレクチャールーム、野外掲示板等を利用し、入山者に対する自然解説及び利用案内を実施しました。

表 平成27年度 自然解説活動のまとめ

区分	自然観察会	スライドショー	団体レクチャー	環境学習
参加者数(人)	366(93.6%)	1,608(114.0%)	337(69.3%)	337(166%)
実施回数(回)	42(46)	48(48)	9(19)	44(43)

※1 表中カッコは、上段(%)が前年度比、下段(数値)が前年度実績回数

2 環境学習は平成21年度から申込を受けて行うよう実施方法を変更

1. 自然観察会(写真1)

土日や祝日を中心に、山ノ鼻研究見本園をフィールドとして実施しました。

- ①. 実施場所：山ノ鼻植物研究見本園
- ②. 実施時間：7:15～8:00
- ③. 担当者：山の鼻ビジターセンター職員

2. スライドショー(写真2)

自然観察会と同様の期間で開催しました。主に山小屋宿泊者を対象とし、季節写真や図表等、プレゼンテーションソフトを用いて担当者が解説することで、尾瀬への理解を深めてもらいました。

- ①. 実施場所：山の鼻ビジターセンター内のレクチャールーム
- ②. 実施時間：19:00～19:40
- ③. 担当者：山の鼻ビジターセンター職員

3. 環境学習ミニガイドツアー(写真3)

山の鼻ビジターセンター周辺での解説者(ガイド)付きの自然観察を含む環境保全施設見学ミニツアー(環境学習ミニガイドツアー)を行いました。

施設の見学ツアーについては、山ノ鼻地区の公衆トイレをメインに排水処理のしくみや汚泥処理作業、また、環境を守るために多くの費用がかかることなど、環境保全への取り組みについて説明しています。

- ①. 実施日：5月下旬～10月中旬までの毎日
- ②. 実施場所：山の鼻ビジターセンター周辺の県有施設、研究見本園及びその周辺
- ③. 対象者：家族連れ等の少人数のグループ及び学校等の教育旅行団体
- ④. 実施時間：1行程あたり1時間以内
- ⑤. 担当者：山の鼻ビジターセンター職員、環境学習指導員、尾瀬ボランティア等

4. 団体レクチャー

事前に依頼を受けた学校関係者や尾瀬を勉強している社会人グループに対して、スライドショーや自然観察会を開催し、環境保全の取り組みや自然への理解を深めていただきました。

5. 館内解説

不定期で館内展示物の利用案内を含めた解説を、職員や尾瀬ボランティアが実施しました。

6. 展示

- ① 自然情報システムによる花・動植物等尾瀬情報の検索
- ② 植物の開花や鳥などの観察ポイント、登山道の危険箇所などの情報提供
- ③ 気象情報を館内や野外掲示板に表示（天候・最高最低気温・各種注意報等）
- ④ 写真による代表的な植物や、尾瀬内各地域の様子の展示
- ⑤ 時節ごとの観察ポイントを紹介した写真やイラスト
- ⑥ 尾瀬に生息する動物の剥製、毛皮、骨の展示
- ⑦ バス・電車などの公共交通機関の情報提供
- ⑧ 至仏山を構成する蛇紋岩の展示、及び蛇紋岩性質の体験コーナー
- ⑨ オコジョ、ヤマネコーナー（写真、目撃情報の紹介）の展示
- ⑩ ニホンジカ（生態、尾瀬への影響、対策等の紹介）の展示
- ⑪ 写真展示コーナーの設置（野鳥、植物）
- ⑫ ツキノワグマコーナー（生態、目撃情報、対策等の紹介）の展示
- ⑬ 尾瀬国立公園のジオラマ、レリーフマップの設置
- ⑭ 現地に駐在する職員が撮影した写真を場所・日時など明示して展示
- ⑮ 尾瀬保護財団としてのイベント情報の表示

7. 自然情報等の収集・提供

利用者への情報提供や解説資料充実のため、職員が定期的に尾瀬ヶ原、至仏山、アヤメ平を巡回し、登山道や動植物の状況を調査しました。その結果を「尾瀬情報」としてまとめ、尾瀬周辺の各施設、財団ホームページ、関係各機関へ提供しました。

また、毎朝の天候、最低最高気温、学校団体の入山情報及び、毎日のトピックスを「今朝の尾瀬山ノ鼻」、「今日の尾瀬」として毎日、ブログで情報発信を行いました。

放射線量の測定を山の鼻ビジャーセンター前で週1回（毎週月曜日）、牛首分岐等の尾瀬内3ヶ所は巡回に合わせて実施し、その結果を財団ホームページで公表しました。

III. その他の公園施設等の維持管理（写真 4）

尾瀬保護財団では、山の鼻ビジャーセンターの他に、群馬県が整備した、山の鼻公衆トイレ（山ノ鼻地区）、竜宮公衆トイレ（竜宮地区）および群馬県所管の木道・橋等を、平成8年度から管理受託しています。

1. 山の鼻公衆トイレ

山の鼻公衆トイレ及び、合併浄化槽の管理状況は以下のとおりです。

- ①. 供用期間

平成27年4月25日～平成27年11月8日（198日間）

※4月25日～5月14日、10月26日～11月8日の間は男女兼用として開設

- ②. 利用者数

281,191 人（男性 146,134 人 女性 135,057 人）

参考(単位：人)

平成 26 年度	244,727	男性 132,337	女性 112,390
平成 25 年度	285,325	男性 146,357	女性 138,968
平成 24 年度	199,788	男性 71,859	女性 127,929
平成 23 年度	224,447	男性 116,620	女性 107,827
平成 22 年度	265,338	男性 138,202	女性 127,136

③. 維持管理

(ア) 清掃

1 日 1 回の定時清掃のほか、隨時点検を実施し、きめ細かな清掃を行うことで快適な利用環境に配慮しました。また、施設周辺の美化巡回も含めてゴミのない公衆トイレをめざしました。

(イ) 点検

繁閑を考慮したペーパー補給や巡回を行い、快適な環境を維持しました。

(ウ) 合併処理浄化槽の維持

専門業者による定期的な保守・点検作業のほか、異臭や異状の有無を把握するように努めました。

(エ) 啓発活動

トイレ施設の環境保護に対する取り組みの紹介、協力金についての掲示を作成しました。

2. 竜宮公衆トイレ

竜宮公衆トイレ及び、合併処理浄化槽の維持管理業務を専門業者により実施しました。職員は、定期的に協力金の回収と清掃やその他管理状況の点検を行いました。

IV. 植生復元等の事業の実施

1. 荒廃した湿原の植生復元作業地の経過観察

群馬県尾瀬保護専門委員会からの依頼を受けて、平成 16～18 年度に施工した植生復元作業地の回復状況についての経過観察を巡回時に実施しました。

- ①. 実施場所：横田代 標高約 1,880m付近
- ②. 実施回数：巡回時隨時
- ③. 実施内容：平成 18 年度に設置した観察区(5 区)について経過観察としての写真撮影

2. 至仏山保全対策の各種取り組み（写真 5）

当財団が設置する至仏山保全対策会議において、植生保護・登山者安全の観点から、至仏山東面登山道を山ノ鼻登山口からの上り利用とし、下りでの使用は禁止としました。また、東面登山道裸地D, F ブロックの荒廃地についても平成 22 年度から尾瀬ボランティアと協力し、植生回復作業を実施しました。山の鼻ビジャーセンターではマスコミ関係への周知、各登山口への注意看板の設置、各山小屋等への情報提供を行いました。また、東面登山道の踏み出し防止

柵の設置・撤去及び、登山道の補修作業については、尾瀬ボランティアの協力の下、作業を実施しました。

V. 巡回活動の実施

歩道の安全確保、自然情報・利用情報収集、利用者への案内・解説・啓発、美化清掃等を目的に実施しました。

1. 巡回のエリアと頻度

- ①. 竜宮方面 : 1回／週
- ②. 見晴方面 : 1回／週
- ③. 赤田代方面 : 1回／週 程度
- ④. 三条ノ滝方面 : 2回／月
- ⑤. 至仏山方面 : 2回／月
- ⑥. 長沢～アヤメ平方面 : 2回／月
- ⑦. 見晴～アヤメ平方面 : 2回／月

VI. その他

1. 収入金の管理

パンフレット協力金、募金、公衆トイレチップ等による現金収入を集計・管理しました。

2. 開所式の実施（写真 6）

本年度の山の鼻ビジターセンターの開所式を、平成 27 年 5 月 15 日に開催しました。

尾瀬の関係者や山小屋のご主人など尾瀬に関わる方々の他、登山者など一般の方も多数参加していただき、盛況となりました。

また、今回も尾瀬ボランティアによるハーモニカ演奏をしていただきました。

3. 尾瀬ボランティアの活動支援

シーズンを通じた入山口啓発活動やシーズン終盤の「ありがとう尾瀬清掃活動」のコーディネート、現地窓口としてのボランティア活動支援を行いました。（尾瀬ボランティアについては、P. 10 のコラムを参照してください）

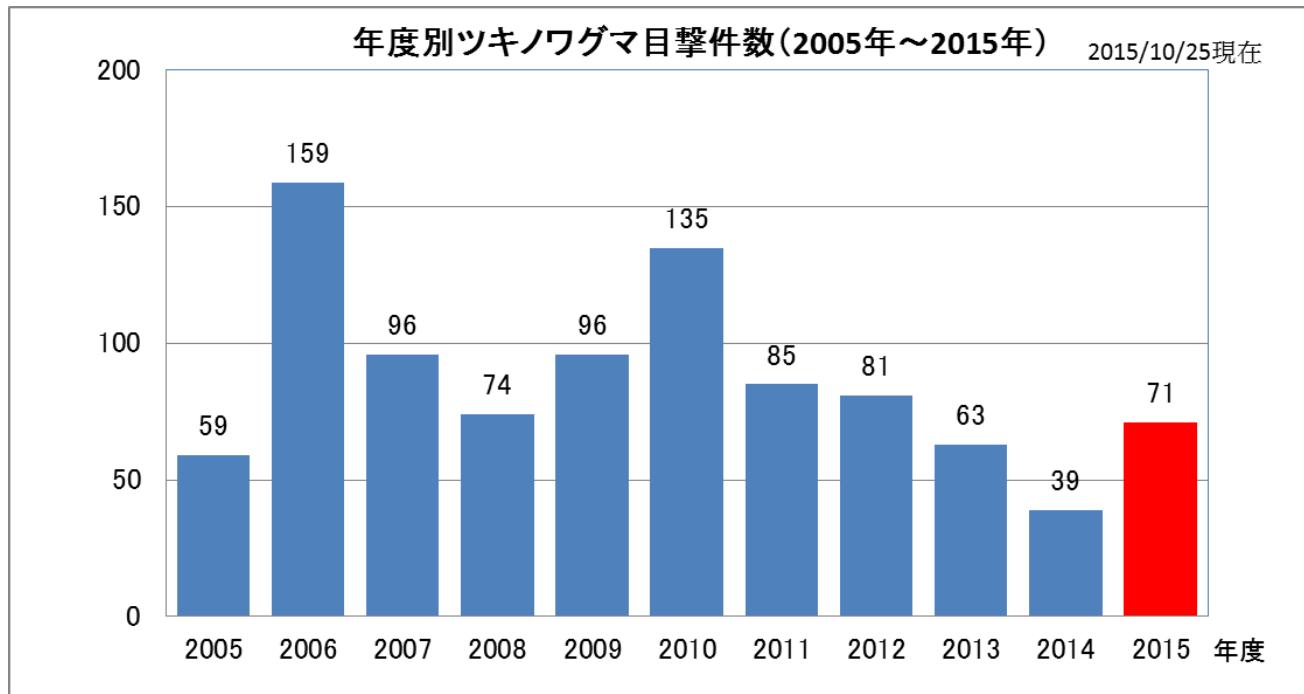
4. 傷病事故の対応（写真 7）

山の鼻ビジターセンターで扱った今年度の傷病事故件数は、76 件（平成 26 年度は 61 件）ありました。山の鼻ビジターセンター窓口での簡易な手当や、片品村遭難対策救助隊の臨時隊員として担架搬送に協力した件数が含まれます。※18 年度（9 月中旬）より AED（体外式自動除細動器）を山の鼻ビジターセンターに設置。24 年度は尾瀬ヶ原地区（群馬県側）救助体制の流れを整理しました（救急連絡系統図、対応等作成）（巻末資料 1 「傷病者対応事例」P. 18～19 もあわせてご覧ください）

5. ツキノワグマ対策（写真 8）

ツキノワグマ対策員に任命された職員が、ツキノワグマ出没対応マニュアルに基づいて対策

を行いました。職員は平成27年5月16日に群馬県主催のツキノワグマ対策研修を受けるとともに、一般客からの目撃情報の収集や普及啓発、笹や葦などの刈払い作業等に協力した他、巡視や追い払いを行いました。



6. ゴミの計量及び域外搬出

群馬県のゴミ処理方針に基づき、山の鼻ビジャーセンターから発生したゴミは、尾瀬地域から域外搬出して処理しました。なお、今年度の総搬出量は1,527.2 kg（前年度774.9 kg）で、山の鼻ビジャーセンター施設内外の不要品を整理搬出したため搬出量増となりました。

7. 定時気象観測

5月31日～10月30日までの毎日、9時と15時に視程・雲量等の目視観測を行うとともに、山ノ鼻地区に設置した気象観測機器で気温・降雨量などの観測を行いました。

8. ニホンジカ対策（写真9）

群馬県尾瀬保護専門委員会からの依頼を受け、深刻化するニホンジカによる湿原植生等の食害被害を把握するために、研究見本園などの攪乱地において防鹿柵や自動撮影装置の設置・撤去を行い、定期的な巡視・点検を実施しました。



(写真 1)

【自然観察会】

週末や繁忙時期を中心に、山ノ鼻研究見本園をフィールドとして実施。

時間：7:15～8:00



(写真 2)

【スライドショー】

週末や繁忙時期を中心に、尾瀬山の鼻ビジターセンターのレクチャールームにて実施。

時間 19:00～19:40



(写真 3)

【環境学習ミニガイドツアー】

山ノ鼻地区の排水処理のしくみなど、環境保全への取り組みについて説明。

時間：随時受付 60 分以内



(写真 4)

【施設等の維持管理】

木道の状況に応じて、簡易な補修を実施



(写真 5)

【至仏山保全対策の取組】

踏み出し防止柵の設置

至仏山東面登山道、笠ヶ岳の一部で実施



(写真 6)

【尾瀬山の鼻ビジャーセンター開所式】

5月15日、財団関係者や山小屋関係者、登山者等の参加により開催



(写真 7)

【傷病事故の対応】

鳩待峠～山ノ鼻間、防災ヘリコプターで搬送される傷病者の様子



(写真 8)

【ツキノワグマ対策の取組】

人とツキノワグマが不意に遭遇する危険を減らすため、研究見本園で刈り払いを実施



(写真 9)

【ニホンジカ対策の取組】

研究見本園での防鹿柵の設置

コラム 尾瀬ボランティア

～ ビジターセンター運営充実を目指すパートナー ～

全国から集まるボランティア

尾瀬ボランティアは主に利用者に対する自然保護思想の普及啓発、美化清掃を行うために（公財）尾瀬保護財団が募集を行い、平成8年6月から組織されています。呼びかけの結果、全国から295人が登録され活動しています。

多くの活動形態

尾瀬ボランティア活動には大きく分けてプロテクター的な活動と、インタープリター的な活動があります。それぞれの主な活動メニューは次のとおりです。

(プロテクター的活動)

入山口(鳩待峠、沼山峠、大清水等)での啓発活動
入山口周辺や尾瀬ヶ原、尾瀬沼周辺等での美化巡回
至仏山東面登山道整備

(インタープリター的活動)

お話しボランティア活動(定点解説)
ビジターセンター支援ボランティア活動

現在の登録状況

295人(平成28年2月17日現在)

内訳：21都府県(群馬県86人、東京都46人、埼玉県42人、千葉県・神奈川県28人他)

平均年齢 66.2歳(最年長85歳、最年少28歳)

年度ごとの取り組み

(括弧内は参加のべ人数) ▼

	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
登録者数	582人	508人	558人	574人	500人	511人	514人	373人	384人	360人
入山口啓発活動	44日(524)	30日(625)	36日(635)	36日(538)	32日(508)	34日(371)	33日(312)	29日(311)	33日(294)	27日(291)
スポット解説			3日(24)	10日(83)	15日(112)	15日(99)	16日(85)	15日(88)	19日(75)	19日(73)
移入植物除去			2日(31)	2日(29)	2日(29)	2日(14)	2日(9)	2日(11)		
植生復元*11				22人	11人	16人	9人	13人	13人	12人
その他	※1	※2	※3.4	※5.6	※7.8	※9			※10	

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
登録者数	367人	348人	363人	355人	365人	340人	347人	311人	287人	295人
入山口啓発活動	27日(249)	25日(177)	29日(153)	45日(146)	45日(114)	44日(135)	48日(126)	40日(98)	40日(115)	34日(96)
スポット解説	19日(63)	19日(44)	42日(43)	28日(56)	33日(58)	20日(34)	25日(35)	27日(32)	18日(25)	8日(15)
移入植物除去										
植生復元*11	16人	13人			3人	5人	5人	7人	5人	8人
その他		※12								

その他

※1 尾瀬クリーン大作戦(以降「ありがとう尾瀬清掃」として継続)

※2 鳩待峠路上駐車防止(現在は休止)

※3 至仏山登山道整備(以後継続)

※4 沼山峠に「尾瀬ボランティア活動詰所」設置

※5 啓発活動従事者講習会

※6 尾瀬ボランティア帽子配布

※7 県道沼田、檜枝岐線の植生回復作業(現在は休止)

※8 お話しボランティア用の旗作成

※9 鳩待峠に「尾瀬ボランティアハウス設置」

※10 各入山口ボランティアハウスに活動用の腕章を配備

※11 15年度までは至仏山、16~18年度は横田代、19年度は燧ヶ岳、22~27年度は至仏山で実施

※12 ビジターセンター支援ボランティア活動開始

～ 尾瀬ボランティアのみなさま、これからも充実した運営のためにご協力をお願いします～

平成 27 年度 尾瀬沼ビジターセンター運営記録

I. ビジターセンター管理運営

環境省の所管施設である尾瀬沼ビジターセンターの管理運営を平成 8 年度から受託しています。平成 26 年度は受託できませんでしたが、平成 27 年度は再び受託し運営を行いました。

1. 運営期間

- (1) 職員駐在：平成 27 年 5 月 18 日(月)～平成 27 年 11 月 2 日(月) (169 日間)
- (2) 開所期間：平成 27 年 5 月 21 日(木)～平成 27 年 10 月 31 日(日) (164 日間)
- (3) 休館日：なし

※5 月 18 日～5 月 20 日は仮オープン（開設準備等）です。

2. 取扱時間

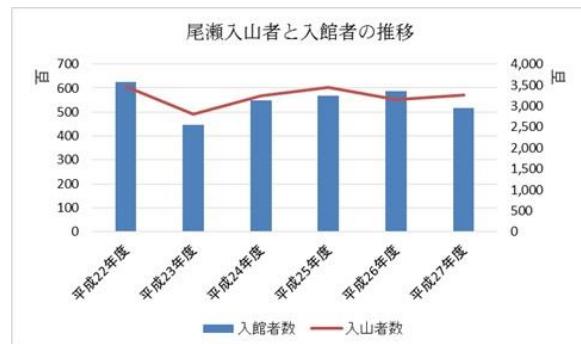
- (1) 施設開館 7:30～16:00
- (2) 窓口案内 7:30～16:00

3. 入館者数

51,762 人 参考(入山者 326,100)

平成 26 年度	58,599	(315,400)
平成 25 年度	56,739	(344,200)
平成 24 年度	55,037	(324,900)
平成 23 年度	44,704	(281,300)
平成 22 年度	62,486	(347,000)

(単位:人)



4. 職員構成

- (1) 人数 7 人
- (2) 構成

職	氏名	主な分掌業務
責任者	阪路 善彦	全体統括
副責任者	宇野 翔太郎	統括補助、消防・災害対応、傷病対応、企画プログラム
管理員	川上 藍	館内展示管理、スライドショー、ボランティア担当
管理員	石塚 舞雪	自然情報管理、情報発信管理、公衆電話管理
管理員	栗城 昭義	窓口対応、施設管理、踏み込み防止柵管理
管理員	平林 丈嗣	施設管理、踏み込み防止柵管理、団体レクチャー担当
管理員	穂坂 義人	巡回管理、自然観察会管理、情報発信管理

II. 自然解説事業等

利用者に尾瀬のふさわしい利用方法を啓発するとともに、豊かな自然の一端に触れ、自然の大切さを認識してもらうことを目的とし、ビジターセンター周辺とビジターセンター館内の展示室、レクチ

ヤールーム室及び掲示板等を利用し、自然解説や利用案内等を実施しました。

表 平成27年度 自然解説活動のまとめ

区分	自然観察会	夜のイベント	拡大イベント	団体レクチャー
参加者数(人)	894(-)	1,616(131.7%)	59(-)	858(99.7%)
実施回数(回)	204(-)	49(51)	2(-)	14(14)

※1 表中カッコは、上段(%)が前年度比、下段(数値)が前年度実績回数

2 自然観察会には、尾瀬を知るミニツアー及び日曜朝イチ観察会を含む

3 夜のイベントには、スライドショー及び尾瀬沼ナイトウォーク等を含む

3 団体レクチャーは、平成25年度の実績と比較

4 表中の(-)は、新規及びこれまでと実施方法が異なるため実績が無いことを示す

1. 自然観察会(写真1)

尾瀬を知るミニツアーは日中1回、日曜朝イチ観察会は日曜日を基本とし、月曜日が祝日の場合には月曜日に実施しました。

- ①. 実施場所：大江湿原や尾瀬沼ビジターセンター周辺
- ②. 実施時間：9:30～10:00(尾瀬を知るミニツアー)、7:30～8:15(日曜朝イチ観察会)
- ③. 担当者：尾瀬沼ビジターセンター職員

2. 夜のイベント(写真2)

土日祝日の前夜等に主に山小屋宿泊者を対象として、季節写真や図表等を用いたスライドショーや暗闇の尾瀬を歩く尾瀬沼ナイトウォーク等を実施することで、尾瀬への理解を深めてもらいました。

- ①. 実施場所：尾瀬沼ビジターセンターのレクチャールーム及びビジターセンター周辺
- ②. 実施時間：19:00～19:45
- ③. 担当者：尾瀬沼ビジターセンター職員

3. 拡大イベント(写真3)

上記1.2とは別に、拡大イベントとしてコウモリナイトハイクと星空観察会を実施しました。専門家をお招きすることで、より深く専門性の高いイベントを実施することができました。

- ①. 実施日：7月31日(金)コウモリナイトハイク、10月2日(金)星空観察会
- ②. 実施場所：尾瀬沼ビジターセンター周辺
- ③. 対象者：家族連れ等の少人数のグループ
- ④. 実施時間：45分～60分程度
- ⑤. 担当者：外部講師及び尾瀬沼ビジターセンター職員

4. 団体レクチャー

事前に依頼を受けた学校関係者や尾瀬を勉強している社会人グループに対して、スライドショーや自然観察会を開催し、環境保全の取り組みや自然への理解を深めていただきました。

5. ビデオ上映

尾瀬の四季を紹介した「尾瀬国立公園の四季」(約18分)や「尾瀬国立公園の誕生」(約18分)

などのビデオ（スライド形式）の上映を随時受け付けました。

6. 館内解説

不定期で館内展示物の利用案内を含めた解説を実施しました。

7. 常設展示（一部抜粋）

- ① 植物の開花や鳥などの観察ポイント、登山道の危険箇所などの情報提供
- ② 気象情報を館内や野外掲示板に表示（天候・各種注意報等）
- ③ 写真による代表的な植物や、尾瀬内各地域の様子の展示
- ④ 尾瀬に生息する動物の剥製、毛皮、骨の展示
- ⑤ ツキノワグマコーナー（生態、目撃情報、対策等の紹介）の展示
- ⑥ 尾瀬の野鳥コーナーの展示
- ⑦ オコジョ、ヤマネコーナー（写真、目撃情報の紹介）の展示
- ⑧ 尾瀬に生育する4種の樹木を用いた展示
- ⑨ 尾瀬ヶ原方面の情報の展示
- ⑩ 尾瀬での思い出・尾瀬への思いを語ってもらう参加型展示
- ⑪ バス・電車などの公共交通機関の情報提供
- ⑫ 尾瀬沼地域のジオラマの設置
- ⑬ 尾瀬沼ビジターセンター実施のイベント情報の掲示
- ⑭ アンケートコーナー
- ⑮ 尾瀬国立公園周辺の観光案内パンフレット等の設置

9. 企画展示（写真4）

企画展示では、より多くの利用者に展示を楽しんでもらえるよう、時期や訪れるであろう利用者層を想定し展示を行いました。また、見晴地区にある環境省所管の見晴休憩所内でも展示を行いました。

- ①おこじょミュージアム ②新発見！昔の尾瀬写真展 ③日本限定の植物たち
- ④尾瀬のシカ展 ⑤見晴写真展示①②

10. 自然情報等のリアルタイムな収集と発信（写真5, 6）

尾瀬沼を中心とした地域の自然情報や利用情報等の収集を行い、得られた情報を利用者及び関係機関等に提供しました。巡回範囲外の尾瀬ヶ原地域や会津駒ヶ岳、田代山等については、尾瀬山の鼻VCなどの関係機関と協力し情報の収集と発信を行いました。また、適正な利用が進むよう必要に応じて踏み抜き防止除雪や進入防止ロープ柵設置、注意喚起看板設置等を行いました。

収集した情報は、VC館内での掲示及び配布、Facebook等のインターネットにより利用者へ提供しました。また、山小屋や入山口周辺の施設、関係機関へは尾瀬山の鼻VC及び本部などと連携し、紙面や電子ファイルなどにより情報を提供しました。

11. 来館者が増えるよう工夫を凝らした発信（写真7, 8）

昨年度環境省が作成した尾瀬沼VCへの案内地図等を掲載したVC利用案内リーフレットの連絡先を修正、印刷し、関係機関や周辺施設等に配布しました。また地元（檜枝岐村）への情報発信

として、見晴地区にある見晴休憩所で実施した企画展のチラシを全世帯に配布しました。

来館者の引き入れ及びリピーターの獲得を目的として、来館そのものが目的となり楽しみとなるよう「来館者数4万人達成イベント」や「尾瀬スタンプラリー」を実施しました。

III. 施設管理及びその他の業務（写真9）

1 傷病者発生時の対応

檜枝岐村遭難対策協議会（尾瀬沼地区本部 尾瀬沼ヒュッテ）の指示により、尾瀬沼地区周辺で発生した、傷病者の対応を行いました。対応した件数は以下のとおりです。なお、切り傷等の窓口対応のみの事象も含まれています。計17件（うち、担架搬送2件、ヘリ搬送3件、AED対応0件）

2 積雪期等による危険箇所への掲示

残雪期等に巡回などで危険と判断した箇所について、必要に応じて除雪や注意喚起看板の設置を行いました。

また、自然災害等による被害があった場合には、現地に注意喚起看板を設置するとともに、関係機関等に対して迅速な情報発信を行いました。

3 非常時における公園利用者の誘導及び安全措置の実施

台風や豪雨等の荒天時には、朝方に木道・登山道などの巡視を行い、冠水・倒木等の状況を確認して迅速に関係機関への情報提供を行いました。

また、その他の緊急時においても利用者への情報提供及び注意喚起看板の設置等の必要な対策を行いました。

4 ニホンジカ捕獲業務の補助作業

尾瀬沼周辺で行われるニホンジカ捕獲業務において、シカセンサー受信機による確認作業や捕獲後の作業、下山前には冷凍庫の清掃を行いました。

IV. 尾瀬沼ビジャーセンター職員が兼務したその他の事業

1 福島県特植事業

(1) 尾瀬地区植生復元調査等業務

尾瀬地区の福島県地域における植生復元事業として、雪圧により沈下した調査杭の引き起こし等の管理、外来植物及び平地性植物除去及び堀の清掃作業、尾瀬保護調査会の調査同行などを行いました。

2 財団自主事業

(1) 尾瀬ボランティア活動支援

入山口啓発活動（沼山口）やお話ボランティア活動等におけるコーディネートを行いました。



(写真 1)

【自然観察会】

日中一回の尾瀬を知るミニツアーや
日曜日を中心とした日曜朝イチ観察
会を尾瀬沼ビジターセンター周辺を
フィールドとして実施。

ミニツアーアイチ観察会 : 9:30~10:00

日曜朝イチ観察会 : 7:30~8:15



(写真 2)

【スライドショー】

週末や繁忙時期を中心に、尾瀬沼ビ
ジターセンターのレクチャールーム
にて実施。

時間 : 19:00~19:45 45 分程度



(写真 3)

【拡大イベント】

専門家をお招きすることで、より深
く専門性の高いイベントを実施。

時間 : 不定期 60 分程度



(写真4)

【企画展示】

尾瀬についての理解を深めることや、自然環境保護の意識を広められるよう企画展示を実施。



(写真5)

【尾瀬情報（例）】

巡回等で収集した情報は定型の「尾瀬情報」にまとめ、利用者及び山小屋等の関係者へも提供。



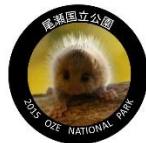
(写真6)

【Facebook での情報発信】

Facebook 等のインターネットも活用して利用者へ情報を提供。

尾瀬スタンプラリーオリジナル缶バッジ 全8種

No.1 ヤマネ



No.2 オコジョ



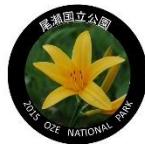
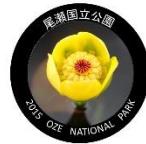
No.3 ミズバショウ



No.4 タテヤマ
リンドウ



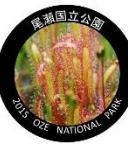
No.5 オゼコウホネ No.6 ニッコウキスゲ



No.7 ヒツジグサ



No.8 ナガバノ
モウセンゴケ



(写真7)

【尾瀬スタンプラリー】

利用の分散化等を目的として、尾瀬沼ビジターセンター、見晴休憩所、尾瀬山の鼻ビジターセンターの3つのチェックポイントを設定。



(写真8)

【来館者数4万人達成イベント】

来館者に対して感謝の心を伝えつつ、来館そのものが目的となり楽しみとなることを目的として実施。



(写真9)

【傷病対応】

檜枝岐村遭難対策救助隊の指示により、尾瀬沼地区周辺の傷病者の対応を実施。

コラム 尾瀬自然解説ガイド

～ビジターセンターのサポート～

尾瀬自然解説ガイドとは ～自然に親しむお手伝い～

主に滞在時間の短い入山者を対象にした自然解説のためのガイドです。自然に親しむとともに、マナーの向上を図り、尾瀬の適正な利用を推進することが目的です。参加料は1人当たり500円～1,500円で、保険料や緊急時の無線機購入などの事務費に充てています。ガイド本人には、鳩待峠・御池～現地までのバス代などの一部を補う程度で、給与や報酬は支給していません。なお、尾瀬自然解説ガイドの催行はビジターセンターが起点、終点になっています。

活動の意義 ～尾瀬を深く理解してもらうために～

尾瀬サミット2002で、尾瀬におけるガイドの役割とガイド資格の課題が議論されたことをきっかけに、財団のガイド事業への取組が始まりました。財団では、尾瀬に対する理解を深めてもらうためには、尾瀬の自然の素晴らしさを実感してもらうことに加え、尾瀬の自然保護に対しても十分理解してもらうことが必要だと考えています。ガイドは、尾瀬の魅力や大切さを掘り下げて利用者に伝えることのできる担い手です。尾瀬自然解説ガイドの利用を通じて、多くの入山者に貴重な尾瀬の自然を体感してもらえるよう活動を続けています。

活動の実績

年度	合計利用者数(人)	尾瀬ヶ原ガイド利用者数(人)	尾瀬沼ガイド利用者数(人)
18	240	190	50
19	252	245	7
20	452	448	4
21	294	290	4
22	292	292 (内尾瀬学校は113)	0
23	239	197 (内尾瀬学校は135)	42
24	642	450 (内尾瀬学校は372)	192
25	890	633 (内尾瀬学校は558)	257 (内環境学習は255)
26	155	155 (内尾瀬学校は122)	—
27	487	477 (内尾瀬学校は415)	10

信頼される自然解説ガイドを目指して ～質の高いガイドの人材を確保～

ガイド事業の成否を決めるのは、ガイドの質そのものです。尾瀬自然解説ガイドでは、IP(インタープリテーション)研修を受講済みの尾瀬ボランティアの方を対象に、導入研修を実施し、レポートの提出・現地研修をもって、ガイド登録を行っています。現在20名のガイドが登録されています。

また、催行中の事故等にも対応できるよう、3年おきに救急救命講習の受講を義務づけたり、既登録者対象の技術研修を実施するなど、ガイドレベルの維持向上に努めています。

ビジターセンターとの連携 ～利用者の安全のために～

尾瀬自然解説ガイドは無線機を持ち歩き、ビジターセンターと連絡を取り合っています。それは、ビジターセンターにガイド状況を適切に伝えることにより、ガイド利用者の安全を確保していくためです。尾瀬はラムサール条約に登録され、また単独の尾瀬国立公園に指定されたことにより、さらなる注目を集めています。安心で安全な尾瀬利用を確保するため、安全確保に対するガイドの質も重要なことでしょう。

～ ビジターセンター利用者のみなさま、これからも充実した運営のためにご意見をお願いします ～

コラム 一般の方から寄せられた声

～ビジターセンターに寄せられた声から～

- ◆ もう少し動物がみたいです。育てたものでも良いので、オコジョやヤマネの本物を見せてください。
- ◆ 木道が壊れている場所があります。
- ◆ トイレにお金を入れない人がいました。
- ◆ 道が細くて歩きづらいです。
- ◆ 木道に東電マークを発見。改めて、東電を見直しました。初めて尾瀬に来ました。協力金も惜しいとは思いません。100円 50円 100円と払います。健康も自然も電気も道もお金がかかります。ご苦労様です。
- ◆ 多くの人が熊鈴をつけて歩いており、時折うるさく感じます。山荘によって、よく鈴を付けてないよう言っているところもありますが、他の売店では鈴が売られています。何かルール作りができないでしょうか。不要な鈴の音は、鳥や風の音が聞こえなくなります。多分、付けている本人は気にならないのでしょうか・・・
- ◆ 自然がいっぱい楽しかったです。お花は、すごくかわいかったです。最高です！
- ◆ パソコンの尾瀬ガイドで天気予報が見られると便利です。一番天気が心配です。
- ◆ 大変勉強になる、素晴らしいビジターセンターでした。尾瀬沼ビジターセンターと共に、これからもたくさん的人に尾瀬のすばらしさを伝えてください。ありがとうございました。
- ◆ とても分かりやすく展示がしてあり、とても見やすかったです。毛皮など色々あり、面白いです。
- ◆ 入り口の動物の剥製にびっくりしました。展示がとても面白いと思います。（特に、触ったり体験したりできるのがgood!）夜のオススメスポット情報（蛍が見られる等）があるのは良いのですが、夜になかなか行けないので、夜の様子などムービーで見られると尚良いと思います！ありがとうございました。
- ◆ 色々なことが知れて楽しかった。お土産があるともっと良かった。
- ◆ 尾瀬にいる動物が色々分かって良かったです。熊に出会ったら、「怖い」と思ってパニックになりそうだけれど、しっかり対処したいです
- ◆ 剥製が怖いです・・・。
- ◆ 自然の豊かさに驚いた。楽しいです。
- ◆ キツネやタヌキにさわられて楽しかったです。
- ◆ 剥製は可哀想だと思う。

巻末資料 1

平成 27 年度 ビジターセンター傷病者対応事例

尾瀬山の鼻ビジターセンター対応事例（担架搬送、ヘリ搬送したものを抜粋）

転倒事故	5月25日に山の川上川橋付近で転倒事故が発生。左足首骨折の疑いで自力歩行困難。防災ヘリによる搬送を行った。
転倒事故	6月4日に上ノ大堀川橋付近で転倒事故が発生。右脛・膝骨折の疑いで自力歩行不能。防災ヘリによる搬送を行った。
転倒事故	6月6日にテンマ沢湿原付近で転倒事故が発生。右足首骨折の疑いで自力歩行不能。防災ヘリによる搬送を行った。
転倒事故	6月8日に竜宮小屋の宿泊客が前日の怪我が悪化し歩行困難。防災ヘリによる搬送を行った。
転倒事故	6月8日に竜宮小屋付近の木道で転倒し、山の鼻 VC で休息していたが自力歩行困難と判断し、防災ヘリによる搬送を行った。
転倒事故	6月9日に下ノ大堀川橋付近で転倒事故が発生。右足脛骨折のため自力歩行不能。防災ヘリによる搬送を行った。
転倒事故	6月13日に鳩待峠～山ノ鼻間で転倒事故が発生。右足脛骨折の疑いのため、自力歩行困難。防災ヘリによる搬送を行った。
転倒事故	6月13日に下ノ大堀川橋付近で転倒事故が発生。右足脛骨折の疑いのため自力歩行困難。防災ヘリによる搬送を行った。
病気の疑い	6月15日に鳩待峠～山ノ鼻間で病気が原因と思われる傷病が発生。早急な対応が必要と判断し、防災ヘリによる搬送を行った。
病気の疑い	7月7日に山ノ鼻地区の山小屋で病気が原因と思われる傷病が発生。担架搬送を行った。
病気の疑い	7月11日に至仏山の高天原にて病気が原因と思われる傷病が発生。防災ヘリによる搬送を行った。
転倒事故	7月26日に牛首付近で転倒事故が発生。左足膝下出血のため自力歩行困難。防災ヘリによる搬送を行った。
病気の疑い	7月27日に原の川上川橋付近で病気が原因と思われる傷病が発生。早急な対応が必要と判断し、防災ヘリによる搬送を行った。

転倒事故 8月22日にヨセ沢手前付近で転倒事故が発生。右脛が若干腫れており、自立歩行不能。担架搬送を行った。

転倒事故 8月22日に逆さ燧付近で転倒事故が発生。左足首骨折の疑いのため自立歩行困難。防災ヘリによる搬送を行った。

病気の疑い 9月5日に山ノ鼻地区の山小屋で病気が原因と思われる傷病が発生。早急な対応が必要と判断し、防災ヘリによる搬送を行った。

転倒事故 10月3日にテンマ沢湿原付近で転倒事故が発生。左足骨折の疑いのため自立歩行困難。防災ヘリによる搬送を行った。

転倒事故 10月3日に山ノ鼻公衆トイレ付近で転倒事故が発生。左足首捻挫のため自立歩行困難。防災ヘリによる搬送を行った。

尾瀬沼ビジターセンター対応事例（担架搬送、ヘリ搬送したものを抜粋）

転倒事故 5月23日に三平下～尾瀬沼地区間で残雪箇所を踏み抜いた事による傷病が発生。右足首裂傷のため自立歩行困難。防災ヘリによる搬送を行った。

疲労 7月11日にナデッ窪登山道の残雪箇所で疲労などが原因で傷病が発生。自立歩行困難なため防災ヘリによる搬送を行った。

転倒事故 7月17日に三平峠～三平下間で転倒事故が発生。右足首の捻挫のため自立歩行困難。担架搬送を行った。

転倒事故 8月10日に尾瀬沼地区で遊んでいた子どもが誤って石の上に転倒。腰を強打し自立歩行不能。防災ヘリによる搬送を行った。

疲労 10月5日に尾瀬沼地区で原因不明の傷病が発生。股関節が痛むため自立歩行困難。防災ヘリによる搬送を行った。

卷末資料 2

－平成 27 年度 尾瀬のできごとをふりかえる－

平成 23 年度は、東日本大震災の影響により入山者数が初めて 30 万人を下回りましたが、平成 24 年度以降は 30 万人を上回っています。昨年度は、秋に頻繁に台風が上陸するなどの影響等があり対前年比としては減少しましたが、平成 27 年度の入山者は 326,100 人と昨年度より 10,700 人の増加となりました。

また、尾瀬ヶ原方面では傷病事故が非常に多く発生したため、谷川岳警備隊が鳩待峠口で入山者啓発を行ったり、尾瀬沼方面では、尾瀬山開きから御池～沼山峠間に道路陥没が確認されたため一時通行止めになったり、9 月には沼尻休憩所が全焼するなど、平成 27 年度は波乱の年となりました。

尾瀬ヶ原周辺のできごと ^(尾瀬山の鼻ビジャーセンター報告)		尾瀬沼周辺のできごと ^(尾瀬沼ビジャーセンター報告)	
4月			
20	開設準備(除雪作業)		
25	鳩待峠までの道路通行止め解除 公衆トイレ供用開始		
5月		5月	
9	管理員上山	13	管理員上山
11	山岳研修(両ビジャーコ同)	20	御池～沼山峠間に道路陥没発見
15	ビジャーセンター開所式	21	尾瀬山開き(御池地区)
16	ツキノワグマ研修	"	ビジャーセンター開所
"	ごみ持ち帰り横断幕設置(鳩待峠)	"	尾瀬を知るミニツアーオ始
21	尾瀬山開き(御池地区)	22	夜のスライドショー開始
22	夜のスライドショー開始	23	ナデッ窪登山道注意喚起看板設置
23	朝の観察会開始	24	日曜朝イチ観察会開始
"	鳩待峠啓発活動(コーディネート)		
28	防鹿柵設置		
6月		6月	
6	ごみ持ち帰り運動(鳩待峠口)	6	ごみ持ち帰り運動(御池口)
"	山の鼻公衆トイレ大渋滞	13	オサバグサ祭り(28日まで)
20	至仏山東面登山道踏み出し防止柵設置 (尾瀬ボランティアが協力)	"	帝釈山山開き
"	アカゲラの子育て発見	14	田代山山開き
"	轟音玉講習会(水上・片品)	17	消防訓練を実施
21	"	20	轟音玉講習会(沼田・片品)
30	至仏山山開き関係者連絡会議	21	"
		"	停電(22日14時頃復旧)
7月		7月	
1	至仏山山開き	3	ボランティアハウス設置(沼山峠口)
6	笠ヶ岳登山道踏み出し防止柵設置	4	会津駒ヶ岳夏山開き
"	ハクセキレイの幼鳥巣立ち	"	尾瀬ボランティア講座
10	支援ボランティア開始	5	燧ヶ岳夏山開き

1 8	横田代木道危険個所ロープ設置	"	尾瀬ボランティア講座
1 9	笠ヶ岳登山道倒木処理	1 9	拡大イベント「コウモリナイトハイク」を実施
2 3	ヘリ運搬(ゴミ回収)	2 1	ヘリ運搬(ゴミ回収)
2 8	子どもサミット(尾瀬沼で31日まで)	2 8 ~	子どもサミット(尾瀬沼で31日まで)
~			
8 月		8 月	
2	八木沢道倒木処理	3	檜枝岐・大熊町交流事業対応
3	テンマ付近川向うツキノワグマ出没	7	大江湿原ベンチ周辺にロープ柵設置
5	八木沢橋修繕	8	沼山峠啓発活動(コーディネート)
1 4	ツキノワグマ対策草刈(見本園)	1 8 ~	福島県植生復元作業(20日まで)
1 8	ツキノワグマ追い払い(テンマ湿原)	2 4	植生復元モニタリング
		2 5	"
		3 1	尾瀬サミット
9 月		9 月	
3	アヤメ平筐刈	1	尾瀬サミット
"	至仏山植生回復作業	4	尾瀬沼ナイトウォークを実施
1 0	尾瀬シカ対策会議	5	"
1 5	至仏山東面登山道草刈り	1 1	"
1 6	山の川上川橋調査	1 2	"
2 6	インタープリテーション研修	1 8	尾瀬スタンプラリー開始
2 8	" (28日まで)	1 9	沼山峠啓発活動(コーディネート)
3 0	V C 冬囲い材ヘリ搬入	2 1	沼尻休憩所の焼失
		2 3	来館4万人達成イベント実施
		2 6	消防訓練を実施
		2 7	お月見会を実施
10 月		10 月	
3	東面登山道木道及び階段の調査	2	星空観察会を実施
9	県議会決算特別委員会視察	1 4	燧ヶ岳で初冠雪を確認
1 2	27年度交通規制終了	1 5	ボランティアハウス撤去(沼山峠口)
1 7	至仏山東面登山道踏み出し防止柵撤去	1 8	「ありがとう尾瀬」清掃
	尾瀬ボランティアが協力	"	尾瀬スタンプラリー終了
1 8	「ありがとう尾瀬」清掃	2 7	ヘリ運搬(職員荷物等)
1 9	女子トイレ9基閉鎖	3 1	V C 閉館
2 3	防鹿柵・カメラ撤去	"	ヘリ運搬(ゴミ処理)
2 5	女子トイレ閉鎖		
"	V C 閉館		
2 8	見晴沼尻橋板撤去		
11 月		11 月	
2	管理員下山	2	管理員下山
8	下の大堀橋板撤去		
"	公衆トイレ供用終了		
1 0	職員下山		

巻末資料 3

～ 平成 27 年シーズンの尾瀬トピックス ～

- ◆ 昨冬の積雪が多かったため、各施設で雪害が発生しました。
- ◆ 尾瀬山の鼻ビジターセンターの開所式が行われ（5月15日）、尾瀬ボランティアによるハーモニカ演奏が披露されました。
- ◆ 尾瀬沼ビジターセンターの運営を財団が受託しました。
- ◆ 尾瀬山開きが、御池（福島県側）で開催されました。（5月21日）尾瀬山小屋組合の主催としては最後の開催となります。
- ◆ 御池～沼山峠間で道路陥没のため一時通行止め及び通行規制（5月21日～7月17日）され、沼山峠口からの入山者に影響しました。
- ◆ 大清水口から一ノ瀬まで乗合バス・タクシーが営業運行を始めました。（6月20日～10月18日 ※毎年変更の可能性あり）
- ◆ 昨年まで、檜枝岐村から委託を受けていたブナの森ミュージアムについて、今年度、財団は受託しませんでした。代わりに株ひのえまたツーリズムが受託しました。
- ◆ 尾瀬内の傷病者が多数発生し、群馬県警谷川岳警備隊が鳩待峠で啓発活動を実施（繁忙期の土日）しました。
- ◆ 尾瀬沼地区で3県（群馬、福島、新潟）主催の「尾瀬子どもサミット」が開催されました。3県の小中学生60名が集まり、尾瀬の自然について体験し、学ぶとともに交流を行いました。（7月28日～7月31日）
- ◆ 尾瀬サミットが今年は尾瀬沼で開催されました。（8月31日～9月1日）
- ◆ 沼尻休憩所が火災により消失し、それに伴い沼尻のトイレも使用不可となりました。（9月21日）
- ◆ 渋沢温泉小屋が大雪の影響で倒壊し、シーズン中は営業ができませんでした。
- ◆ 富士見小屋が今季限りで営業を中止すると発表しました。
- ◆ 今年度の尾瀬国立公園の入山者は32万6千100人で、前年度を上回りました。
- ◆ 尾瀬保護財団設立20周年を記念し、ニッショーホール（東京都港区）でシンポジウムが開催され、尾瀬の自然保護に貢献された方への特別表彰や、有識者によるパネルディスカッションが行われました。（12月19日）

尾瀬トピックス20年史(過去の運営記録より)

年	尾瀬地区内の出来事	その他の出来事
8年	入山者数過去最高の64万人	尾瀬保護財団設立 第一回N H K「私の尾瀬」フォトコンテスト開催
9年		御池ロッヂ改装オープン ブナの森ミュージアム運営協力開始(H13年から繁忙期の週末を中心に管理員を派遣、H15年まで)
10年	ゴミ分別・域外搬出開始	
11年	6/6 ツキノワグマによる人身事故発生	ミニ尾瀬公園オープン(桧枝岐村)
12年		7/28 子どもサミット(山ノ鼻) 8/4 尾瀬サミット(山ノ鼻)
13年		赤田代公衆トイレチップ制開始 9/12 尾瀬サミット 2001(尾瀬沼)
14年	山小屋建替え時廃材の不法投棄発覚 山VC下山時積雪のため孤立。龍宮小屋とともに防災ヘリで下山	携帯電話基地局論争(入山口に基地局設置) 至仏山保全緊急対策会議発足 9/5 尾瀬サミット 2002(山ノ鼻)
15年	大清水～一ノ瀬間旧道整備開始(群馬県) 大清水～一ノ瀬間電気自動車試験運行	第一回尾瀬地域関係者連絡会議 尾瀬の入山者で死者6名 9/11 尾瀬サミット 2003(桧枝岐村内)
16年	6/5 ツキノワグマによる人身事故発生(ヨシッポリ田代) 8/10 山ノ鼻キャンプ場一時使用禁止(ツキノワグマ) 8/4 尾瀬地域内のゴミ焼却が発覚(見晴地区の山小屋) 8/24 ツキノワグマ学習放獣実施	7/1 第一回至仏山山開き開催(鳩待口) 8/9 尾瀬サミット 2004(湯之谷村)
17年	雪の被害多数	7/26 子どもサミット台風のため中止 8/18 「夏の思い出音楽祭」開催(戸倉スキーコード) 8/19 尾瀬サミット 2005(片品村) 11/8 尾瀬がラムサール条約湿地登録 12/17 尾瀬保護財団 10周年記念シンポジウム開催(有楽町朝日ホール)
18年	雪の被害多数 6/下 山ノ鼻、尾瀬沼地区で過去のゴミが発見。 10月 ボランティア・一般登山者による埋設ごみの撤去作業	4/20 尾瀬国立公園実現期成同盟会発足 8/25 尾瀬サミット 2006 開催(尾瀬沼) 10/8 見晴地区風雨による倒木事故発生
19年	6/24、9/4 ボランティア・関係者による埋設ごみの撤去作業(尾瀬沼地区) 10/11 ボランティア・一般登山者による埋設ごみの撤去作業(山ノ鼻) この年をもって燧ヶ岳の温泉小屋道が廃道	尾瀬沼キャンプ場供用再開 8/30 尾瀬国立公園誕生 8/31 尾瀬サミット 2007 開催(山ノ鼻) 12/23 尾瀬国立公園記念式典がニッショーホールで開催。桧枝岐歌舞伎披露

尾瀬トピックス20年史(過去の運営記録より)

年	尾瀬地区内の出来事	その他の出来事
20年	至仏山東面登山道が登り専用となる 尾瀬ガイド協会が発足する	5/21 尾瀬山開きが戸倉で開催 7/18~20 尾瀬国立公園記念国際シンポジウム開催(魚沼) 尾瀬認定ガイド座学実施 8/31 尾瀬サミット 2008 開催(御池)
21年	6/25、6/26、9/24 ボランティア・関係者による埋設ごみの撤去作業が行われる(尾瀬沼地区)	4月尾瀬ぶらり館開館 7/28 子どもサミット(山ノ鼻) 8/3 尾瀬サミット 2009(東電小屋) 尾瀬認定ガイド現地講習実施
22年		檜枝岐村内に事務所開設 7/28 子どもサミット(尾瀬沼) 9/3 尾瀬サミット 2010(山ノ鼻)
23年	7/31 鳩待峠～山ノ鼻間等尾瀬地区内の木道・階段等が流出し、天然カラマツの倒木等甚大な被害がある 大澤知事が鳩待峠～山ノ鼻間の被害状況を視察	3/11 東日本大震災 ブナの森ミュージアム窓口業務受託 尾瀬サミット中止 7/31 新潟福島集中豪雨 9/8、9 尾瀬フォーラム開催(尾瀬沼)
24年	5/24 尾瀬ヶ原で落雷による死亡事故が発生する	5/22 尾瀬山開き戸倉で開催 7/31 子どもサミット(尾瀬沼) 9/4 尾瀬サミット 2012(尾瀬沼地区)
25年	7/1~23 シカの追払いの実施(18:00~5:00) 台風18号により、燧ヶ岳の見晴新道で土石流が発生したため登山道が流出し、当面利用禁止となる	5/23 尾瀬山開き(御池) 7/29 子どもサミット(山ノ鼻) 9/3 尾瀬サミット(奥只見湖畔)
26年		尾瀬沼ビジターセンター運営、財団外れる 5/21 尾瀬山開き(戸倉) 7/29 子どもサミット(尾瀬沼) 9/2 尾瀬サミット(尾瀬岩鞍リゾート)
27年	尾瀬沼ビジターセンターの運営を財団が受託 各施設において雪の被害が多数見られ、渋沢温泉小屋は倒壊によりシーズン中は営業ができませんでした。 6/20~10/18 大清水～一ノ瀬間で乗合バス・タクシー営業運行開始 ※毎年運行期間変更の可能性あり 尾瀬内の傷病者多数。(谷川岳警備隊が鳩待峠で啓発活動) 9/21 沼尻休憩所の火災による消失に伴い、沼尻のトイレも使用不可となる 富士見小屋、今季限りで営業を終了すると発表	5/21 尾瀬山開き(御池) 5/22 御池～沼山峠間、一時通行止め及び通行規制(5/21～7月17日) 7/28 子どもサミット(尾瀬沼地区) 9/1 尾瀬サミット(尾瀬沼地区) 12/19 尾瀬保護財団設立20周年記念シンポジウム開催(東京・ニッショーホール)

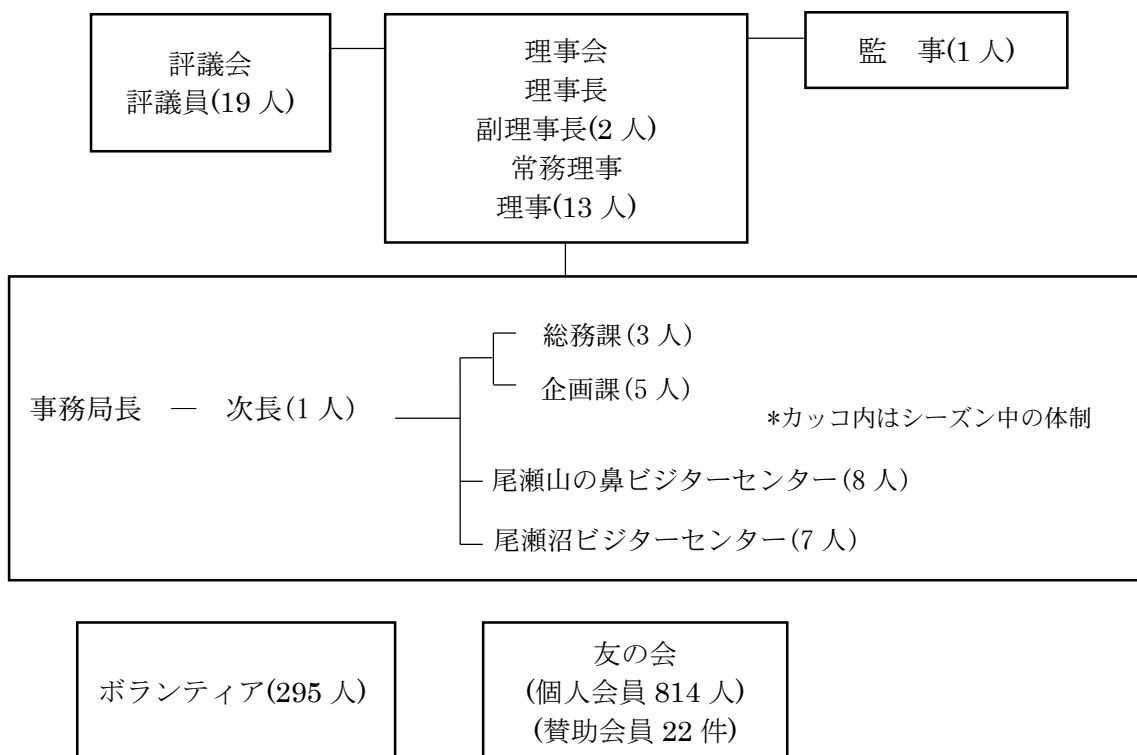
尾瀬保護財団の沿革と概要

財団の沿革

平成 4 年 8 月 4 日	福島・群馬・新潟三県知事による「尾瀬サミット」（尾瀬沼山荘）
平成 7 年 6 月 13 日	財団設立発起人会（東京都内）
" 8 月 3 日	財団設立、第1回理事会（尾瀬沼ヒュッテ） 群馬県大友庁舎（前橋市大友町）に事務所設置
平成 8 年 5 月 15 日	尾瀬沼ビジターセンターの運営開始（環境庁から受託）
" 5 月 18 日	尾瀬山の鼻ビジターセンターの運営開始（群馬県から受託）
平成 9 年 4 月 1 日	群馬県公社総合ビル（前橋市大渡町）に事務所移転
平成 11 年 7 月 13 日	特定公益増進法人に認定（財団への寄附につき税制上の優遇措置が受けられる制度。以後 2 年毎に認定を更新）
" 9 月 3 日	群馬県庁（前橋市大手町）に事務所移転
平成 25 年 4 月 1 日	内閣総理大臣により「公益財団法人」への移行が認められる

財団の概要

- ・設立日 平成 7 年 8 月 3 日
- ・基本財産 約 15 億円（平成 26 年度末現在）
- ・主な事業 入山者啓発、自然解説、植生復元、施設管理、調査研究、顕彰事業など
- ・組織体制



施設概要

- ・尾瀬山の鼻ビジターセンター 設置者：群馬県
鉄骨木造 2 階建 延床面積 344 m² 平成 5 年築
展示室 69 m² レクチャールーム 80 m² 事務室 17 m²
- ・尾瀬沼ビジターセンター 設置者：環境省
鉄骨木造 2 階建 延床面積 493 m² 昭和 60 年築
展示室 132 m² レクチャールーム 99 m² 事務・会議室 32 m²

この冊子について

この冊子は、公益財団法人尾瀬保護財団が受託運営する尾瀬山の鼻と尾瀬沼の両ビジターセンターの平成27年度実績報告をまとめたものです。活動の概要を関係者へ報告するとともに、今後の運営資料として活用するために作成しています。

☆集計方法について

ビジターセンター入館者数 公衆トイレ利用者数

- 施設に設置されているセンサーで自動計測した結果をそのまま集計しています。

停電等により計測に不具合があった場合は、適宜補正しました。また自動計測のため、例えば行列や感知器の前に障害物がある場合には実際との誤差が発生しますが、これについては特に補正していません。公衆トイレについては山ノ鼻のみセンサーが設置されています。

その他

- 比率(%)で示した数値は、すべて小数点以下第2位を四捨五入しています。
- 本文中に「V C」とある場合は、「ビジターセンター」と読み替えてください。

平成27年度

尾瀬山の鼻・尾瀬沼ビジターセンター運営記録

平成28年3月

〒371-8570 群馬県前橋市大手町一丁目1番1号

公益財団法人 尾瀬保護財団

Tel (027)220-4431

fax (027)220-4421

ホームページアドレス <https://www.oze-fnd.or.jp/>

E-mail アドレス info@oze-fnd.or.jp

ビジターセンターの 自然体験プログラム

—— お問い合わせは ——

公益財団法人 尾瀬保護財団

〒371-8570 群馬県前橋市大手町 1-1-1

TEL 027-220-4431

FAX 027-220-4421

E-mail : info@oze-fnd.or.jp

ビジターセンターでは利用者に尾瀬の自然の大切さを知ってもらい、マナーを守りながら利用してもらうためのさまざまなイベントを催しています。

ビジターセンターは山ノ鼻（尾瀬ヶ原の入口）と、尾瀬沼の東畔にあります（表紙裏の地図参照）。散策前に是非立ち寄つてみてください。

※ 天候等により実施しない日もありますので、事前に財団へお問い合わせください

窓口	展示
スタッフが尾瀬のことにお答えします 窓口時間 山の鼻 VC 7:30～16:00 尾瀬沼 VC 7:30～16:00	尾瀬のことがわかりやすくまとまっています。 開館時間 山の鼻 VC 7:30～18:00 尾瀬沼 VC 7:30～16:00
尾瀬情報	ビデオ上映
花の見頃や登山道の様子が毎週更新されています。 Check! Check! Check! 尾瀬情報は尾瀬保護財団ホームページでも掲示しています。 URL → https://www.oze-fnd.or.jp/	尾瀬のビデオが上映されています。 急な申込みでも大丈夫！ 山の鼻ビジターセンターで上映 Hi-Vision「驚異の食虫植物モウセンゴケ」(20分) Hi-Vision「トンボ」(18分) Hi-Vision「クモ」(18分) 「尾瀬その成り立ちとしきみ」(16分) 「尾瀬はふるさとー空を渡る生き物たちー」(10分) 尾瀬沼ビジターセンターで上映
セルフガイド	
一人でも自然観察ができるガイドマップが揃っています。 「鳩待峠～尾瀬ヶ原」「研究見本園」「大清水～尾瀬沼」「アヤメ平」「燧裏林道」「尾瀬沼」などがあります。	「尾瀬国立公園の四季」(16分) 「尾瀬沼の四季」(13分) *ほかにもさまざまなビデオがあります。
自然観察会	スライドショー
一緒に湿原へ出てみましょう！ 周辺の湿原で動植物の観察をしながら散策をします。 山の鼻 VC 7:15～8:00, 尾瀬沼 VC 9:30～10:00 等 ※ 開催時期についてはお問い合わせください。	スライドのはなしを聞きながら尾瀬の不思議を知る 「今日のショーはあるの？」と利用者から尋ねられる程の定番企画です。まずは参加してみてください。 夜：19:00～19:45(45分程度) ※ 開催時期についてはお問い合わせください。
企画展示	
尾瀬を深く知るための特別展示です。 ※ 開催時期・内容についてはお問い合わせください。	グループで尾瀬を学びたいので、案内して欲しい事前に申込みのあった団体には、観察会やスライドショーなどのプログラムを実施しています(要予約)。
尾瀬自然解説ガイド	団体レクチャー
実施日を限定して、自然解説ガイドが短時間のガイドをします (コース限定、有料、要予約)。 ※ 開催日についてはお問い合わせください。	専門家をお招きすることで、より深く専門性の高いイベントを実施しています。※開催時期についてはお問い合わせください。
お話しボランティア	拡大イベント(尾瀬沼 VC にて実施)
平日の休憩ベンチには個性豊かな解説ボランティアがいます。 ※開催時期や内容についてはお問い合わせください。	この他、ビジターセンターに関する色々な情報は、尾瀬保護財団のホームページをご覧ください。